

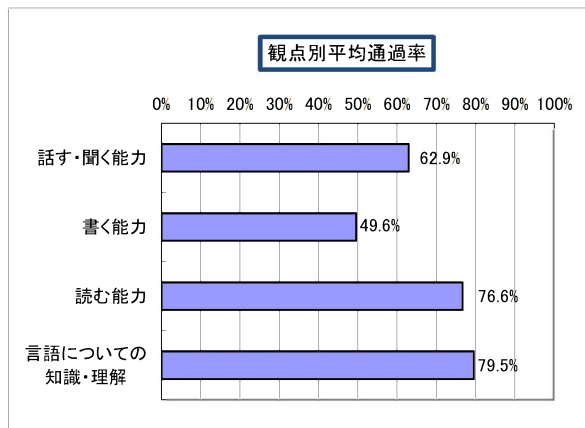
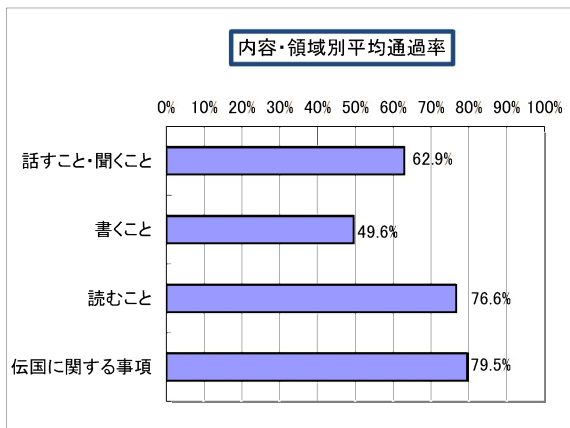
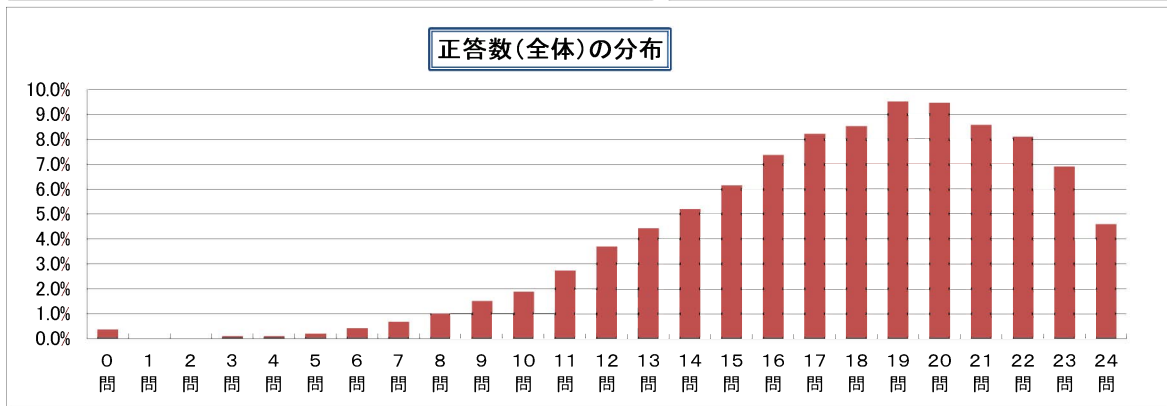
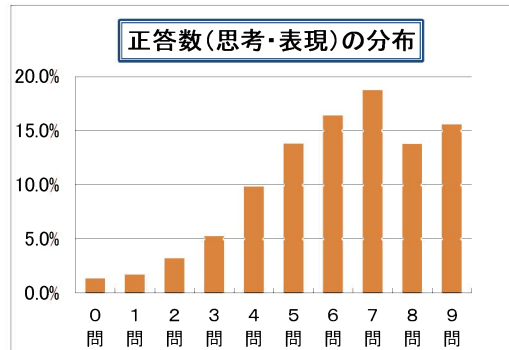
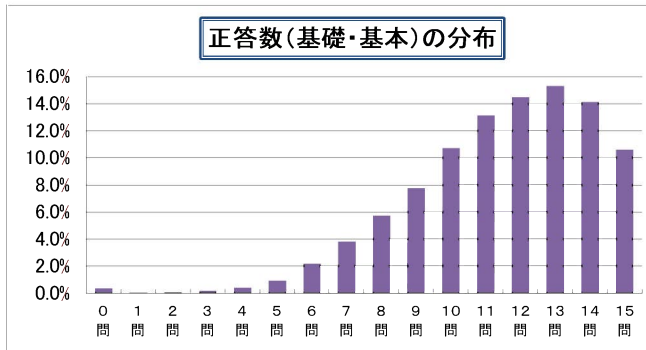
3 各教科の平均通過率と受検者の正答数分布（県全体）

(1) 【小学校】

小学校第5学年【国語】

学年別平均通過率

	小5	中1	中2
基礎・基本	76.6%	82.8%	78.1%
思考・表現	68.4%	73.6%	66.4%
全体	73.6%	79.6%	74.5%

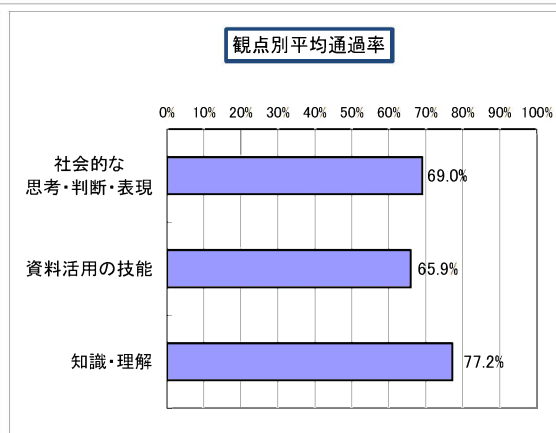
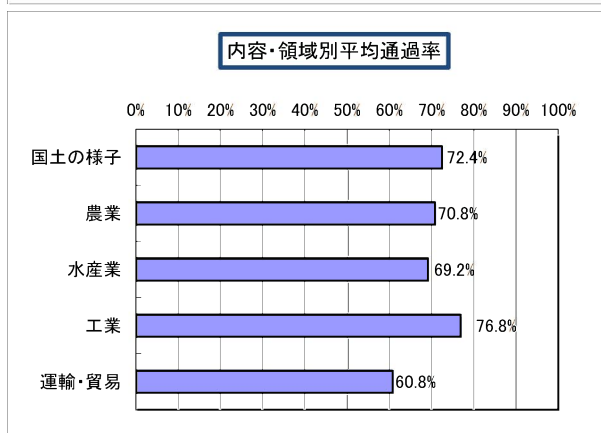
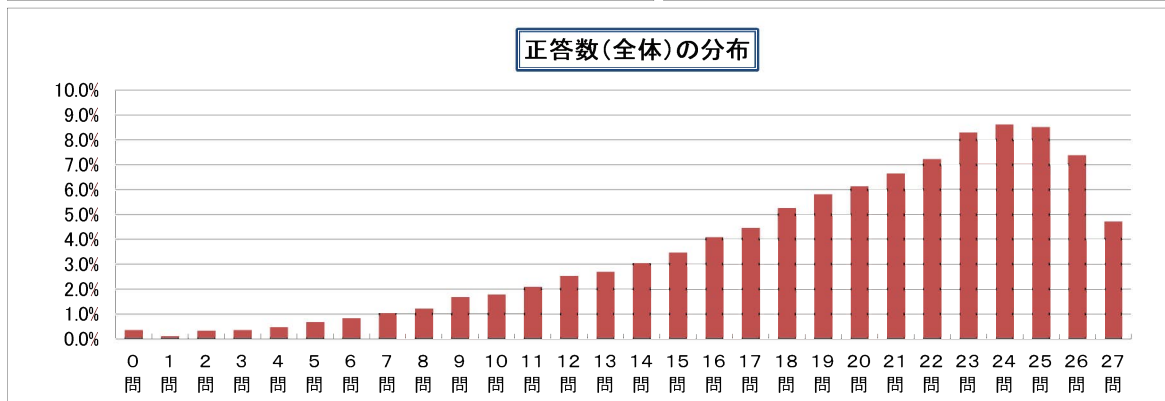
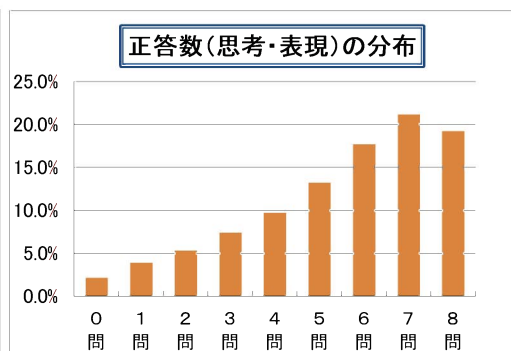
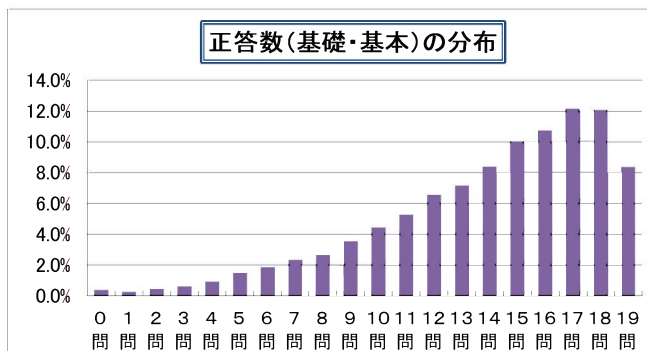


- 内容・領域別に見ると、読むことと言語事項に関して通過率が高くなった。また、無解答の割合については、昨年度は2割弱の問題が2問見られたが、今回は全ての問題で1割以下となり、改善が見られた。
- 読むこと全体としては、75%を超える通過率であった。しかし、説明的文章の読みにおいては、課題が残った。大問3の二で、説明的文章の基本的な構造である「問い」について出題した。形式段落15段落中のどこに問いが書かれているか見付ける問題であったが、通過率は6割弱であった。「問い」と「答え」という構造を押さえながら説明的文章を読む指導について再確認したい。
- 書くことでは、出題されたグラフに表れている事実から考えをまとめ、記述する問題を出題した。本問題については、2学期重点課題としても取り組んだが、通過率は4割程度であった。児童のつまずきの原因が読み取りにあるのか、考えの形成にあるのか、記述力にあるのか明らかにして指導したい（大問4の三の2）。

小学校第5学年【社会】

学年別平均通過率

	小5	中1	中2
基礎・基本	73.6%	67.2%	59.7%
思考・表現	69.0%	60.1%	64.6%
全体	72.2%	64.9%	61.2%



○ 「基礎・基本」に関する問題の平均通過率は73.6%、「思考・表現」に関する問題の平均通過率は69.0%と、概ね定着が図られている。

「内容・領域別通過率」を見ると、運輸・貿易に関する平均通過率が60.8%と低くなっている。

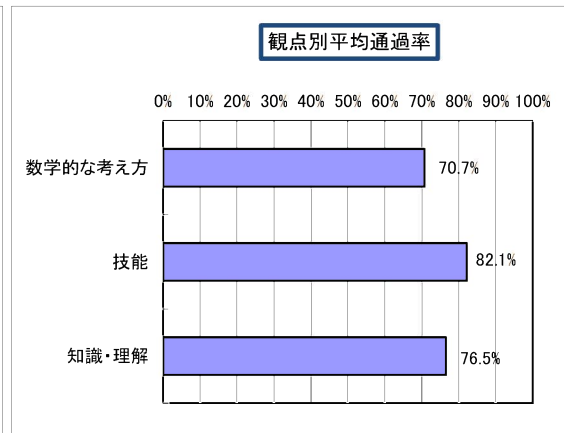
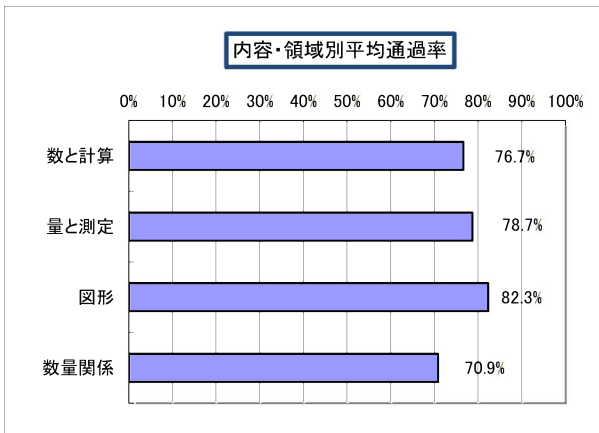
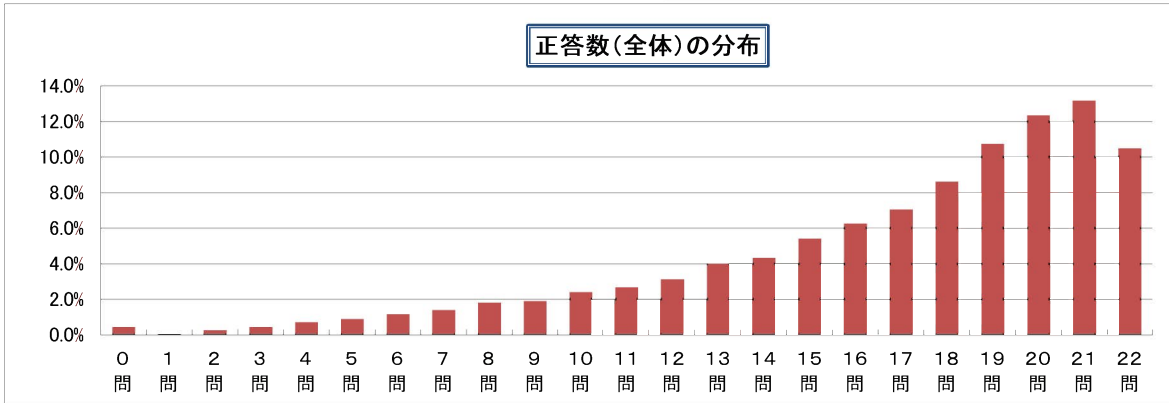
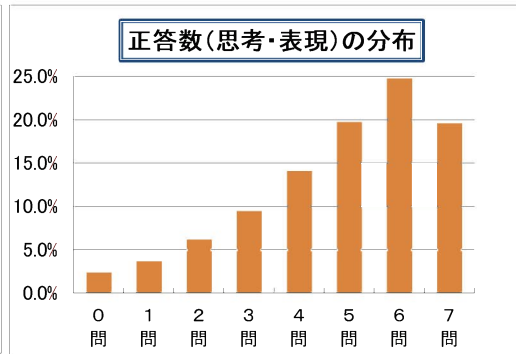
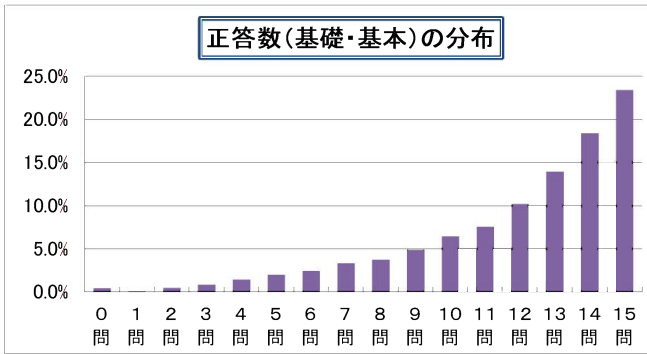
また、「観点別通過率」を見ると、資料活用の技能に関する問題の平均通過率が65.9%と他の観点に比べて低く、自動車会社の工場と関連工場に関する問題の通過率が低くなっている。

○ 資料やグラフ等から分かることを説明したり、複数の資料の共通する部分や相違点等をまとめたりする活動を重視するとともに、自分の考えを発表したり、ペア・グループで意見を交流したりする活動に取り組ませたい。

小学校第5学年【算数】

学年別平均通過率

	小5	中1	中2
基礎・基本	79.9%	79.2%	65.9%
思考・表現	69.7%	54.6%	50.9%
全体	76.7%	71.3%	60.7%

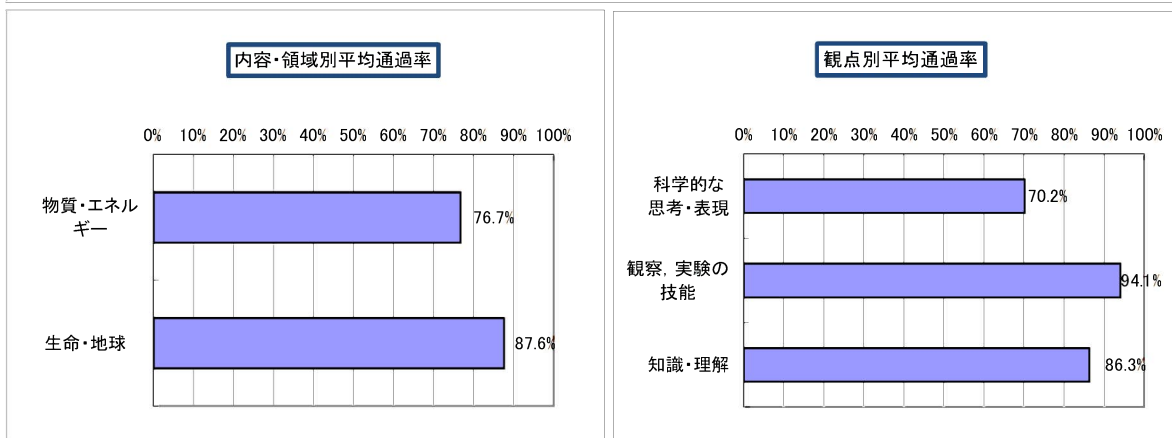
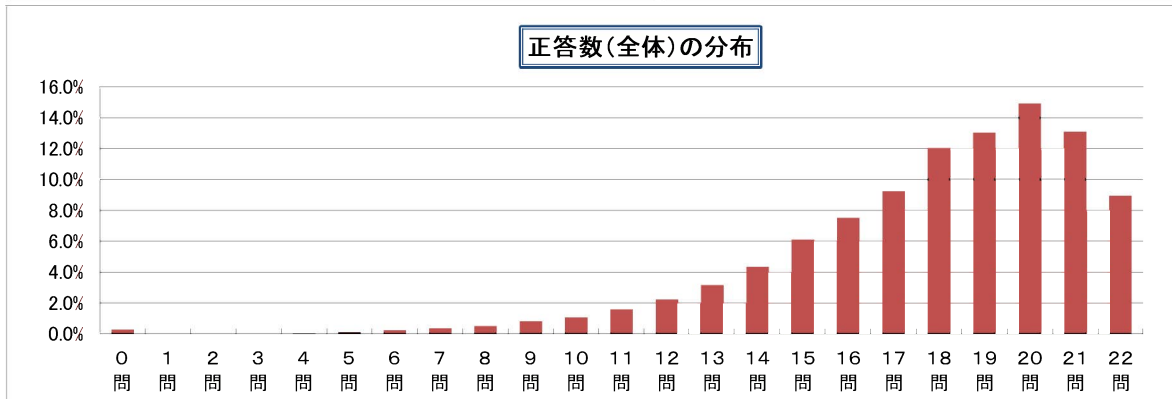
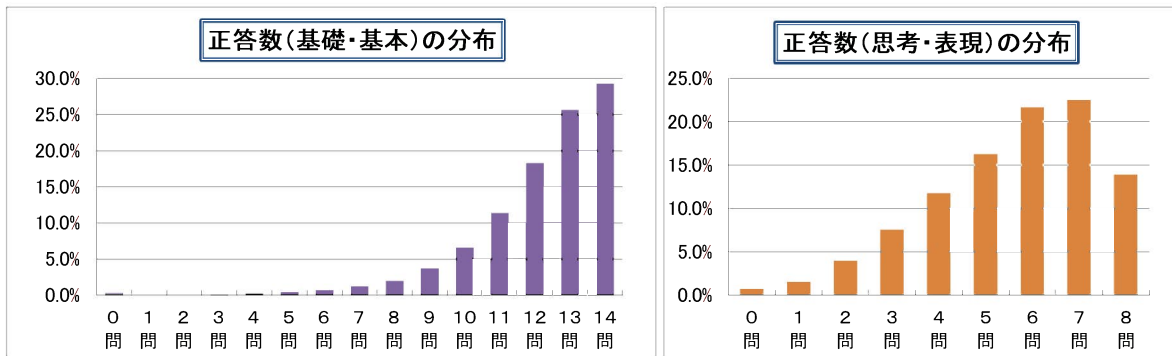


- 「基礎・基本」については、平均通過率が79.9%であり、概ね定着が図られているが、「数と計算」領域の基準量と比較量の関係を考える問題が61.0%、「量と測定」領域の台形の面積を求める問題が63.9%であり課題が残っている。基礎・基本の正答数の分布から、正答数が10問以下の児童が26.4%もいる。基礎・基本の確実な定着を図らなければならない。
- 「思考・表現」については、平均通過率が69.7%であり、概ね定着が図られているが、「数量関係」領域の目盛りの間隔が異なる二つの折れ線グラフを比べ、それぞれの変化量を読み取り、変化の様子を説明する問題が39.6%であり、特に「数量関係」に課題が見られる。
- 割合の考え方は、分数の問題や速さの問題など、多くの場面で活用される。活用場面では、児童の理解の状況を丁寧に確認しながら指導する必要がある。グラフの活用では、その必要性や意味、取り扱う上での注意点を理解させ、読み取りや説明などについて繰り返し取り組ませたい。

小学校第5学年【理科】

学年別平均通過率

	小5	中1	中2
基礎・基本	87.5%	71.5%	61.6%
思考・表現	70.2%	51.3%	50.7%
全体	81.2%	64.8%	58.0%



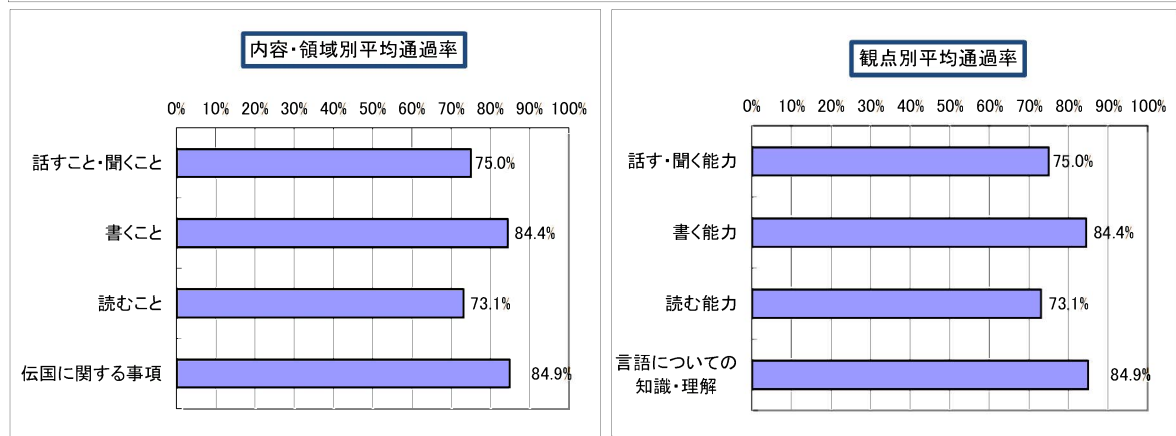
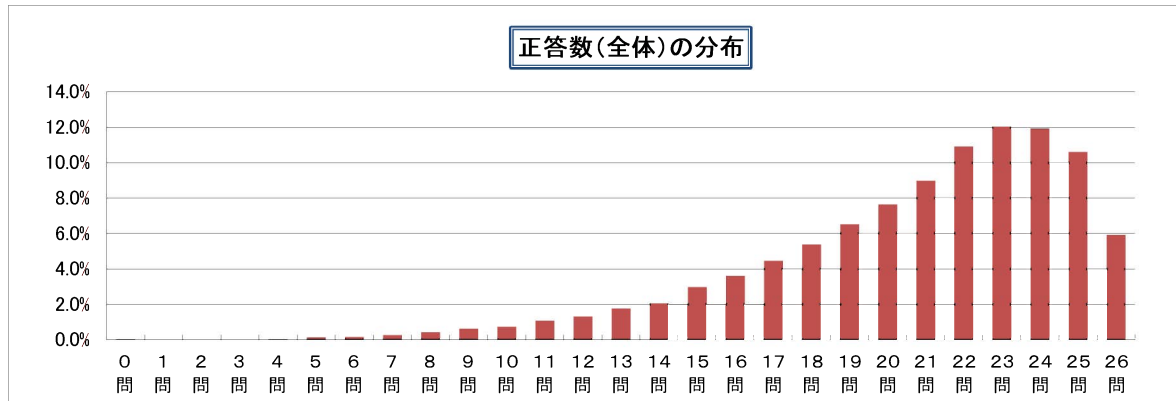
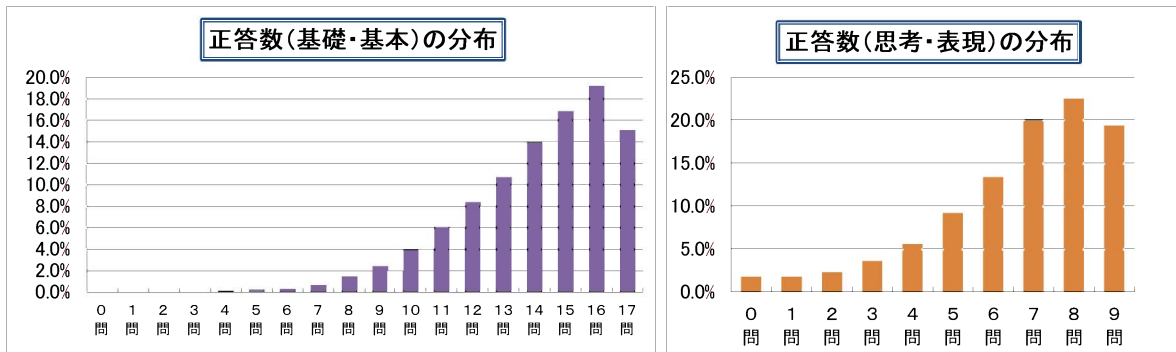
- 「基礎・基本」の平均通過率は87.5%であり、概ね知識は定着している。ただし、小3で学習した内容、大問3の「磁石の異極の引き合い」の平均通過率が67.4%と、やや低くなっている。
- 「思考・表現」の平均通過率は70.2%と、概ね定着しているが、大問7「物の溶ける量」では、平均通過率は31.1%と低い。実験結果をグラフ化する技能は高まっているので、得られた結果を更に活用するなどして、分析、解釈の力を更に高める必要がある。
- 「問題解決の過程」を踏まえた授業を展開し、個人の考えをしっかりとらせる工夫を行い、特に、自分の考えを再構築する振り返りの過程を大切にしてほしい。また、単元末には、かごしま学力向上支援Webシステムにある評価問題等を使うことで、学習内容を確実に定着させたい。

(2) 【中学校】

中学校第1学年【国語】

学年別平均通過率

	小5	中1	中2
基礎・基本	76.6%	82.8%	78.1%
思考・表現	68.4%	73.6%	66.4%
全体	73.6%	79.6%	74.5%



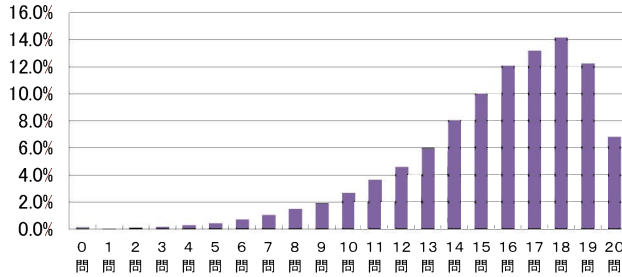
- 内容・領域別に見ると、書くことと言語事項に関して平均通過率が高くなった。また、これまでに比べ、無解答の割合も大きく減少し、問題に粘り強く向き合う姿が見られた。
- 読むことは、73%を超える平均通過率であり、改善の傾向が見られる。文章を読んで内容を理解することと、文章の内容とグラフを結び付けて捉えることを出題したが、両者には15ポイント以上の開きがあった。図表やグラフを用いることの意義やねらいについて、言語活動を通して引き続き指導してほしい（大問1の六の2）。
- 書くことにおいては、文章に表れている筆者のものの見方や考え方に対する自分の考えとその根拠を明らかにして記述する問題を出題した。9割以上の生徒が自分の立場を明らかにし、8割以上の生徒がその根拠を分かりやすく記述することができていた（大問5の三）。

中学校第2学年【国語】

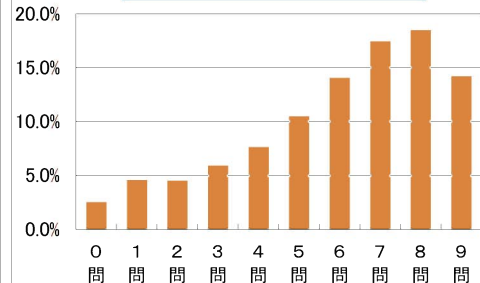
学年別平均通過率

	小5	中1	中2
基礎・基本	76.6%	82.8%	78.1%
思考・表現	68.4%	73.6%	66.4%
全体	73.6%	79.6%	74.5%

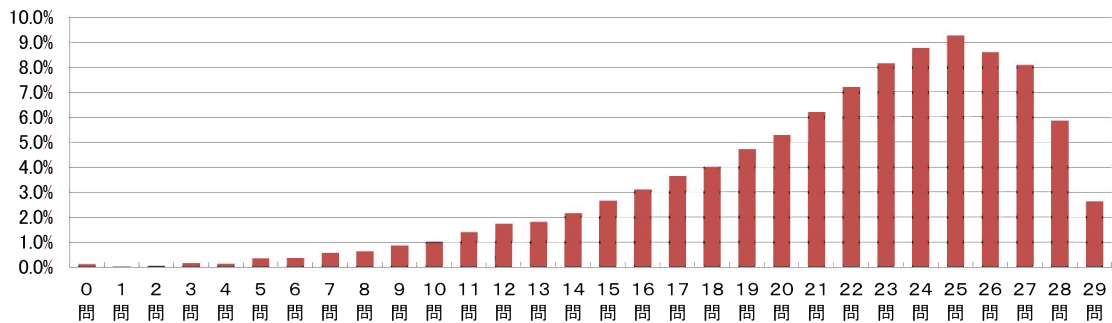
正答数(基礎・基本)の分布



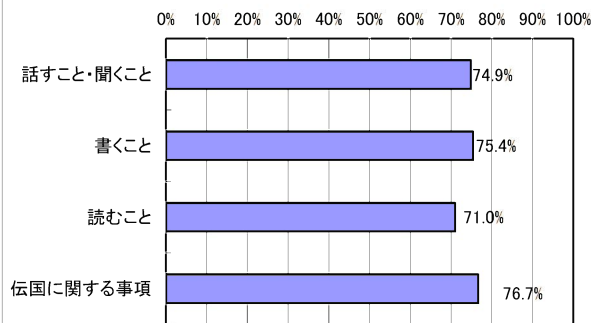
正答数(思考・表現)の分布



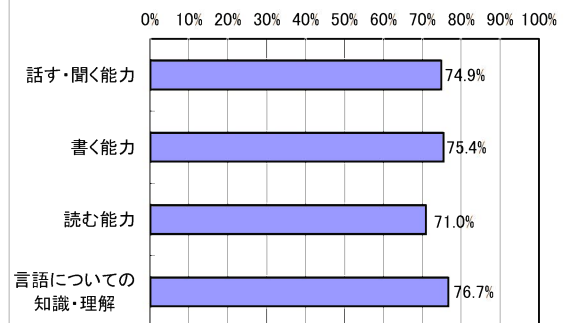
正答数(全体)の分布



内容・領域別平均通過率



観点別平均通過率

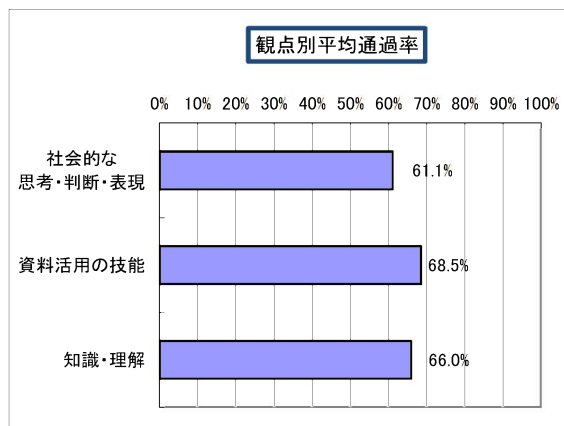
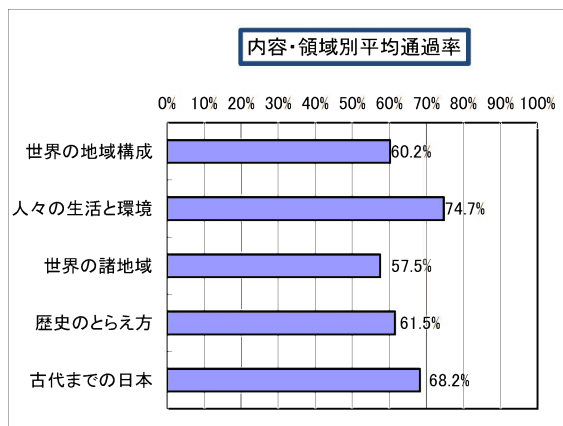
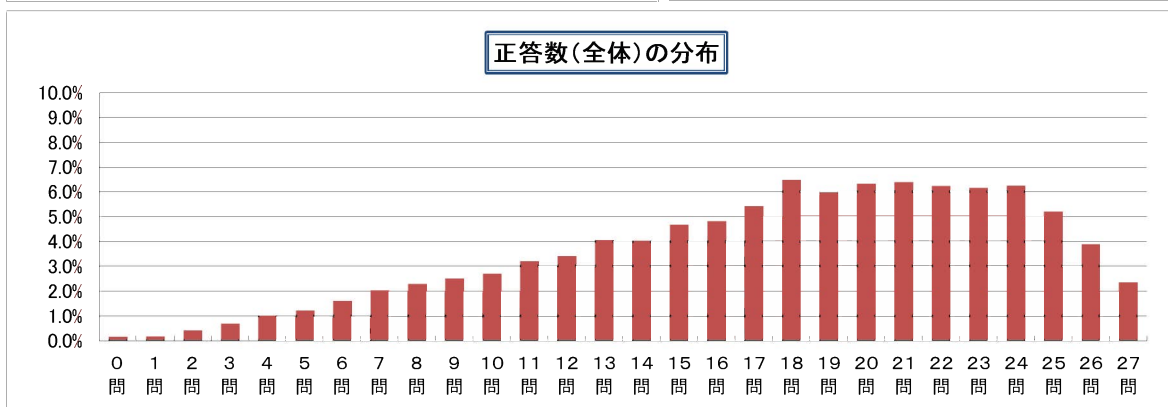
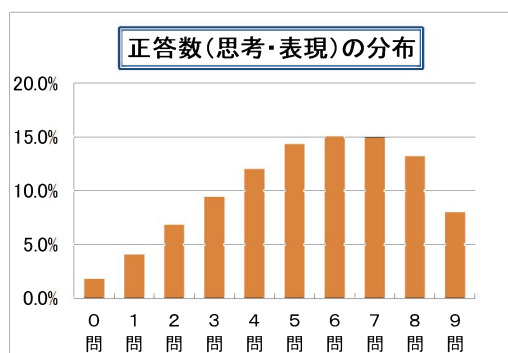
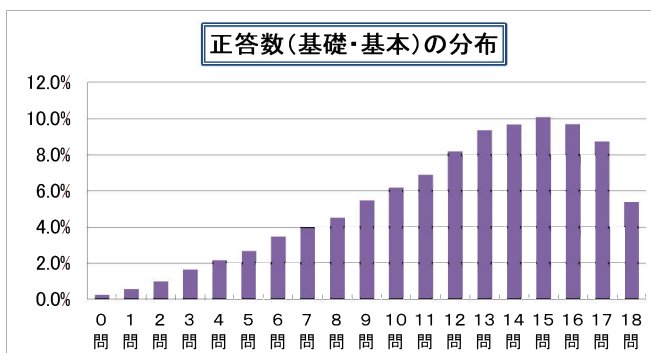


- 全ての内容・領域において平均通過率は7割を超えた。また、無解答の割合も大きく減少した。
- 言語事項の平均通過率は76%を超えた。平成28年度全国学力・学習状況調査で出題された「手塩にかける」という慣用句を完成させる問題では、当時の3年生の正答率55%に比べ、67%と改善が図られた(大問1の四)。しかし、動詞の活用形を問う問題では通過率が約50%と定着が不十分な面もある(大問1の二の1)。
- 書くことにおいては、「SDGs(持続可能な開発目標)」について、自分でどのようなことを調べ、考えをまとめていくかという題材を出題した。平均通過率は7割程度であり、難しい問題であっても自ら課題を発見し、学習の計画を立てることができていた。これからも生徒の主体的な学びが、日々の学習の中で工夫されるよう期待したい。

中学校第1学年【社会】

学年別平均通過率

	小5	中1	中2
基礎・基本	73.6%	67.2%	59.7%
思考・表現	69.0%	60.1%	64.6%
全体	72.2%	64.9%	61.2%



○ 「基礎・基本」に関する問題の平均通過率は67.2%で、「思考・表現」に関する問題の平均通過率は60.1%であり、概ね定着が図られている。

「内容・領域別通過率」を見ると、世界の諸地域に関する平均通過率が57.5%と最も低く、次いで世界の地域構成が60.2%となっている。

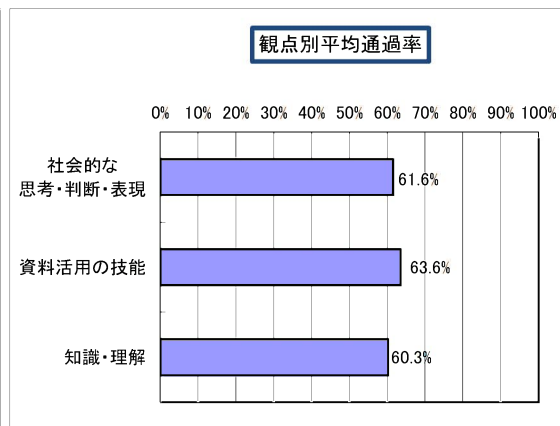
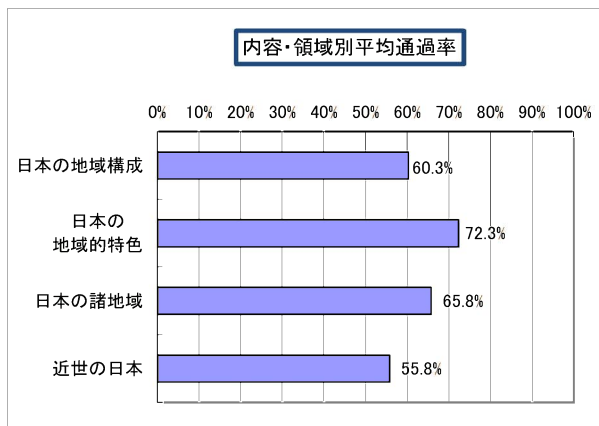
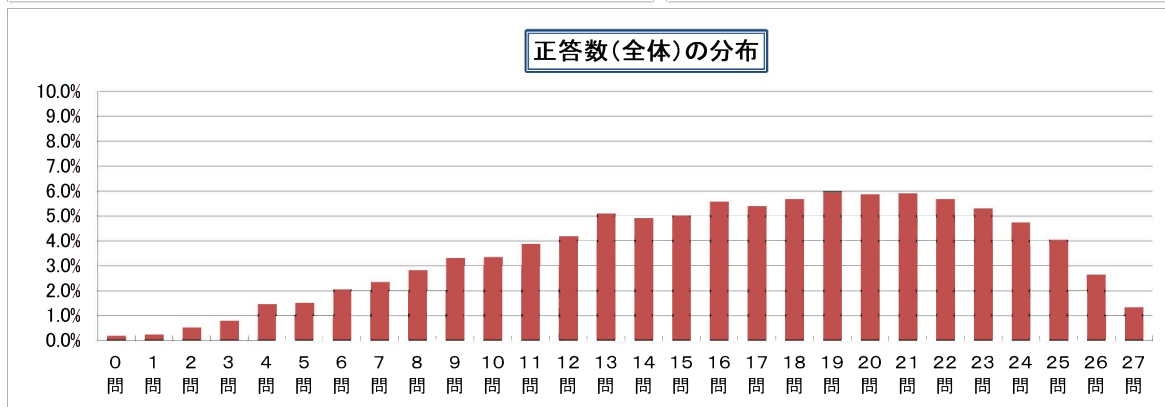
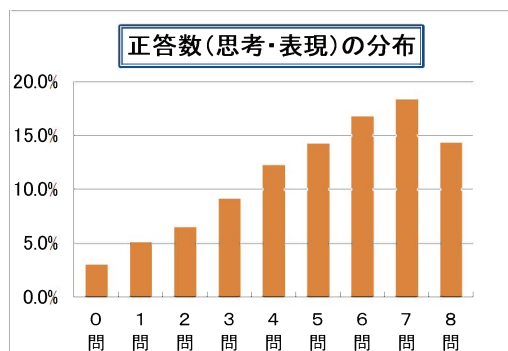
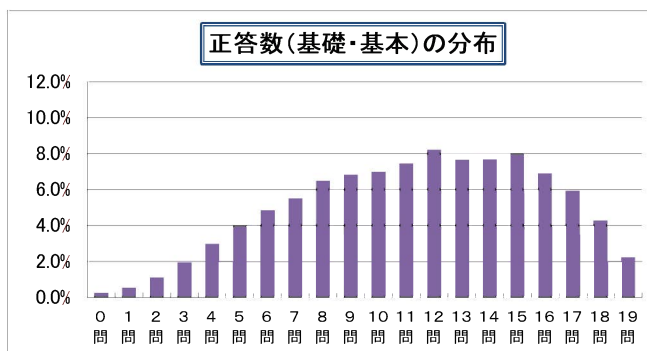
また、「観点別通過率」を見ると、社会的な思考・判断・表現に関する問題が61.1%と他の観点に比べて低く、特に地図の特徴を説明したり、資料を読み取ったりする問題等の平均通過率が低くなっている。

○ 複数の資料(写真, グラフ, 表等)を活用して, 社会的事象を多角的・多面的に捉え, 事象について自分の言葉で共通点や相違点をまとめたり, 考えたことをペアやグループで交流したりして, 考えを深められるような活動を積極的に取り入れた。

中学校第2学年【社会】

学年別平均通過率

	小5	中1	中2
基礎・基本	73.6%	67.2%	59.7%
思考・表現	69.0%	60.1%	64.6%
全体	72.2%	64.9%	61.2%



○ 「思考・表現」に関する問題の平均通過率は64.6%と、概ね定着が図られているものの、「基礎・基本」に関する問題の平均通過率は59.7%であった。

「内容・領域別通過率」を見ると、歴史的分野の近世の日本に関する平均通過率が55.8%と最も低くなっている。

また、「観点別通過率」を見ると、3観点とも60%前半であるが、特に中世、近世における社会的事象の知識・理解に関する問題が他の観点に比べて低く課題である。

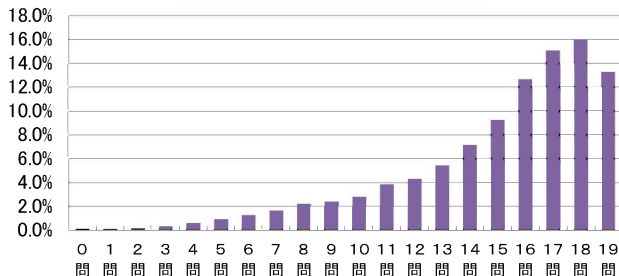
○ 各種調査等を活用して、基礎的・基本的な内容の定着が図られるよう指導を繰り返すとともに、かごしま学力向上支援Webシステム上の評価問題等を活用して、社会的な思考力、判断力、表現力等を高められるような活動に積極的に取り組ませたい。

中学校第1学年【数学】

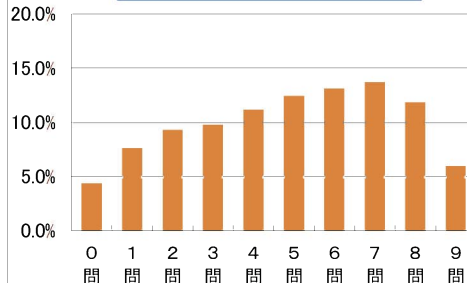
学年別平均通過率

	小5	中1	中2
基礎・基本	79.9%	79.2%	65.9%
思考・表現	69.7%	54.6%	50.9%
全体	76.7%	71.3%	60.7%

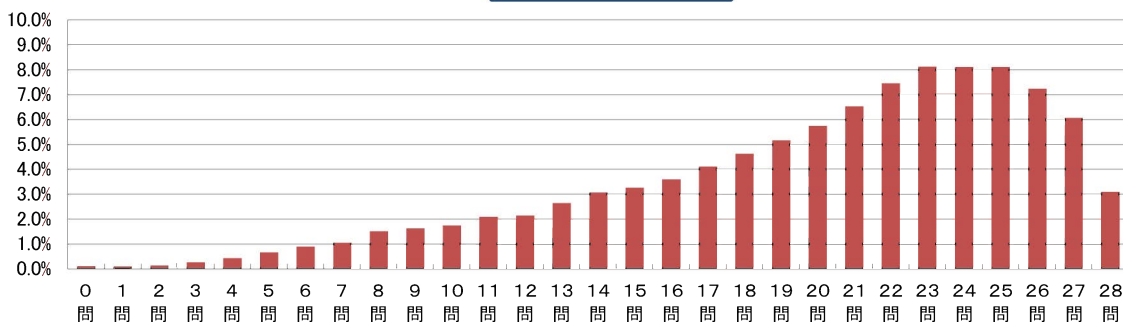
正答数(基礎・基本)の分布



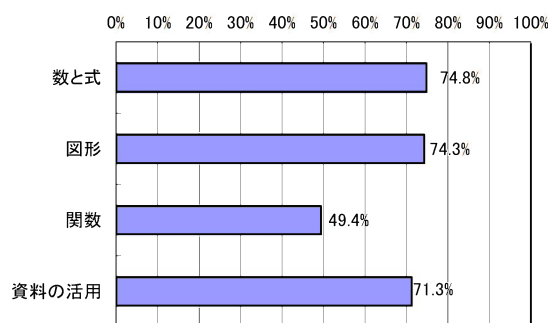
正答数(思考・表現)の分布



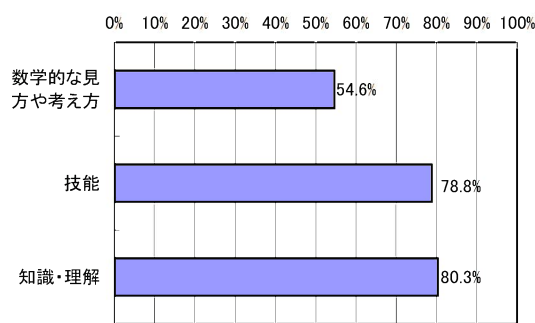
正答数(全体)の分布



内容・領域別平均通過率



観点別平均通過率

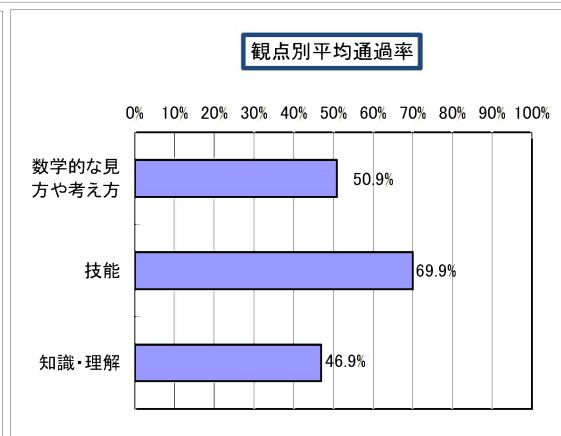
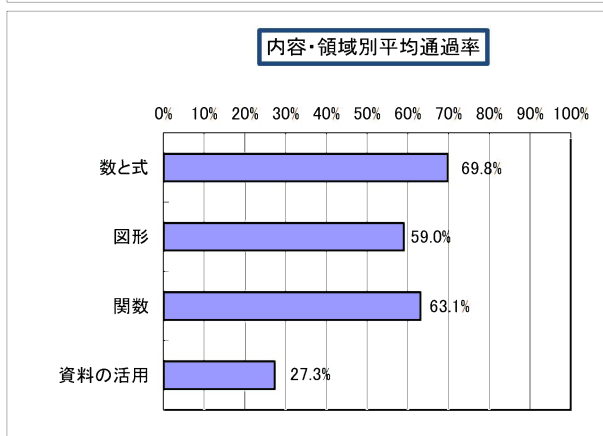
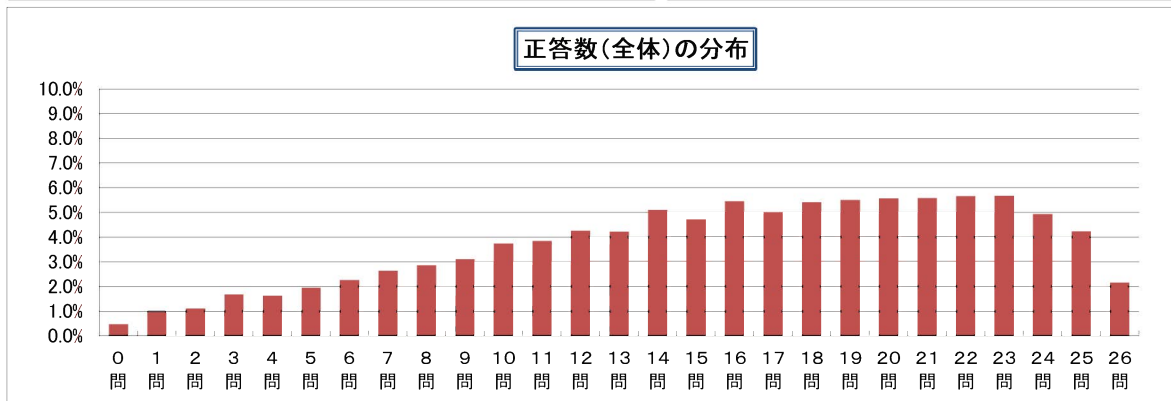
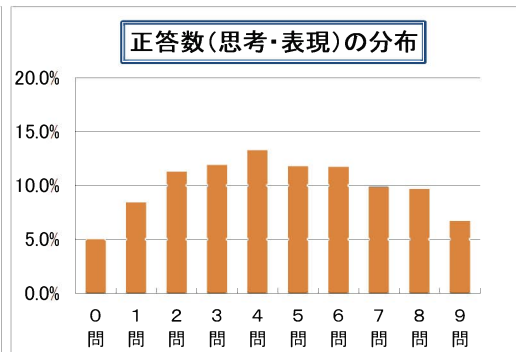
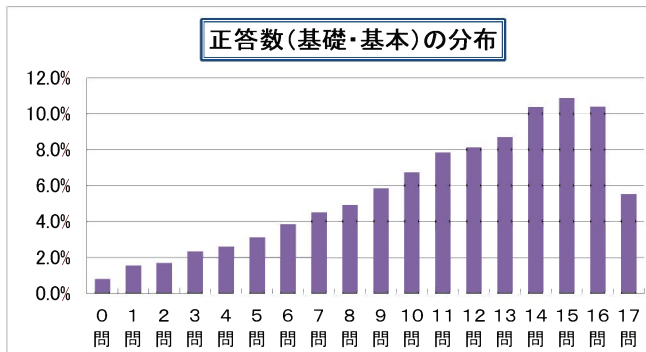


- 「基礎・基本」については、平均通過率が79.2%であり、グラフから比例関係であることを見いだす問題が48.1%、不等式を立式する問題が58.3%である。示された文章とグラフや式との関係が捉えられていない。
- 「思考・表現」については、54.6%であり、道のりと速さの関係から判断の理由を説明する問題が29.9%（無解答率12.6%）、きまりに従った並べ方を捉え、過不足の理由を説明する問題が47.8%（無解答率7.4%）である。数量の関係を表した式を用いて必要な情報を求め、判断の理由を説明することができていない。
- 文章からの立式や求められた式を利用することができるようにするために、方程式の意味や式の値の意味を理解させるとともに、判断の理由を説明させたり、書かせたりすることに取り組ませたい。また、グラフの読み取りも丁寧に取り扱い、理解させたい。

中学校第2学年【数学】

学年別平均通過率

	小5	中1	中2
基礎・基本	79.9%	79.2%	65.9%
思考・表現	69.7%	54.6%	50.9%
全体	76.7%	71.3%	60.7%

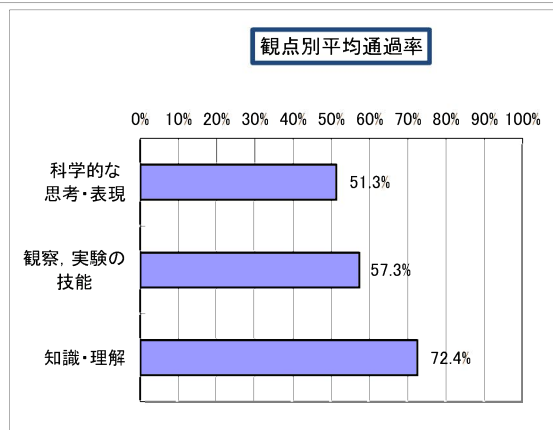
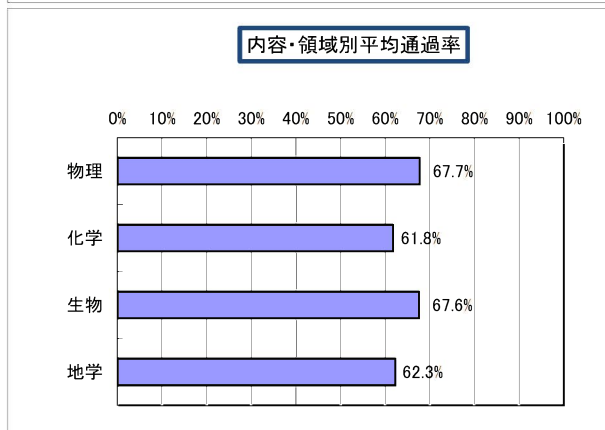
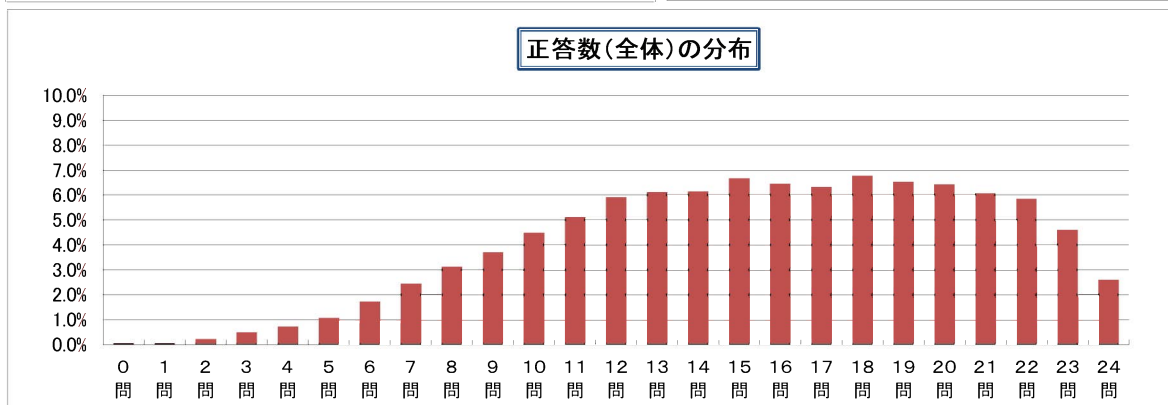
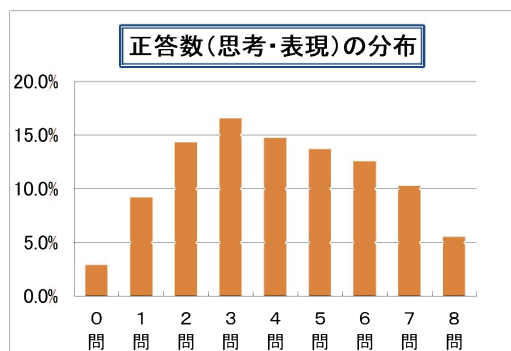
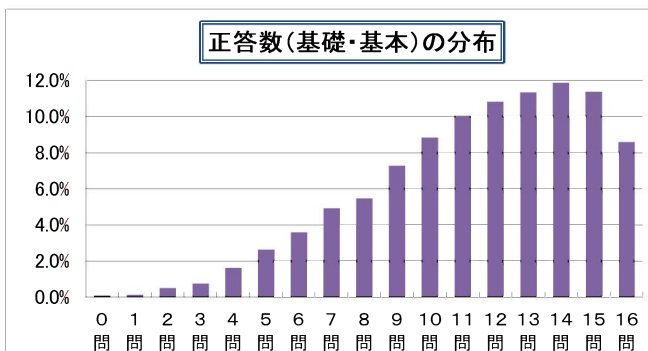


- 「基礎・基本」については、平均通過率が65.9%であり、最頻値の問題が16.9%（無解答率15.0%）、二元一次方程式の立式の問題が35.1%（無解答率11.6%）、回転体（円錐）の体積を求める問題が46.6%である。正答数が9問以下の生徒が31.4%もあり、非常に厳しい状況である。
- 「思考・表現」については、50.9%である。n角形の外角の和の説明が33.2%（無解答率32.3%）、大きさの異なる二つの集団の傾向を説明する問題が31.2%（無解答率36.1%）、資料の傾向を読み取り、代表値を用いて説明する問題が33.7%であり、知識や技能を活用して説明することに課題がある。
- 目的に応じて生徒自身に見通し（方法や根拠等）を書かせたい。また、式やグラフ等を用いた説明を書かせるとともに、考えたことを他者へ説明する活動にも取り組ませたい。「基礎・基本」と「思考・判断」のいずれにおいても、これまでの課題が継続し、改善されていない状況である。評価問題による実践と確実な学び直しをさせる必要がある。

中学校第1学年【理科】

学年別平均通過率

	小5	中1	中2
基礎・基本	87.5%	71.5%	61.6%
思考・表現	70.2%	51.3%	50.7%
全体	81.2%	64.8%	58.0%

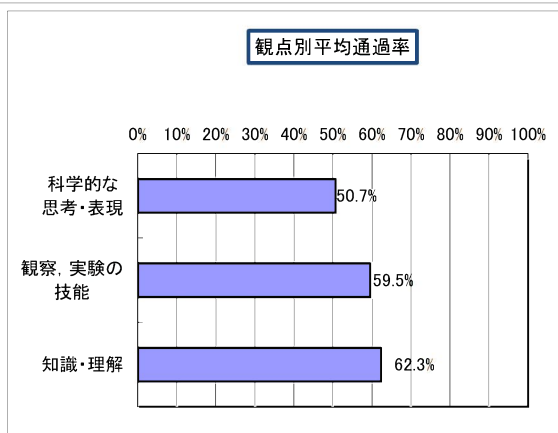
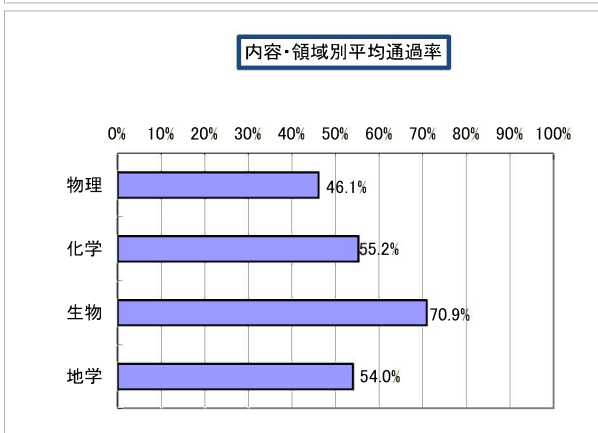
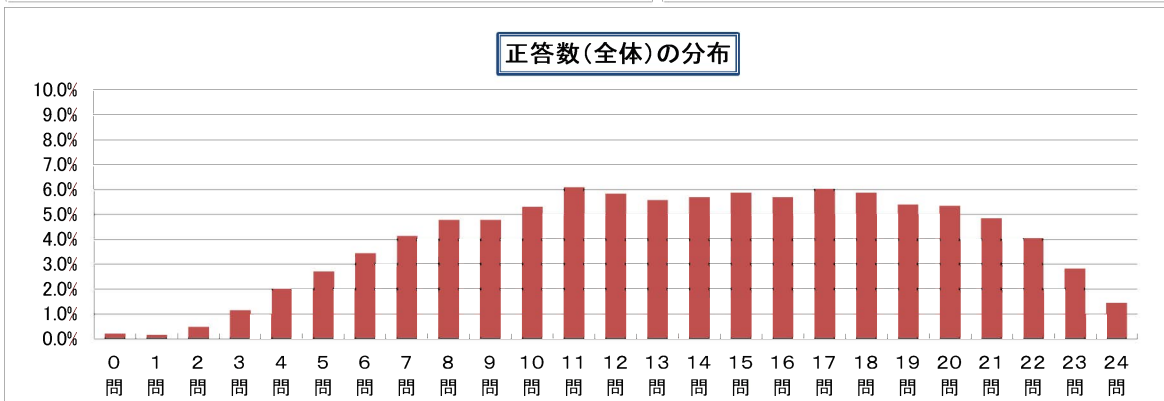
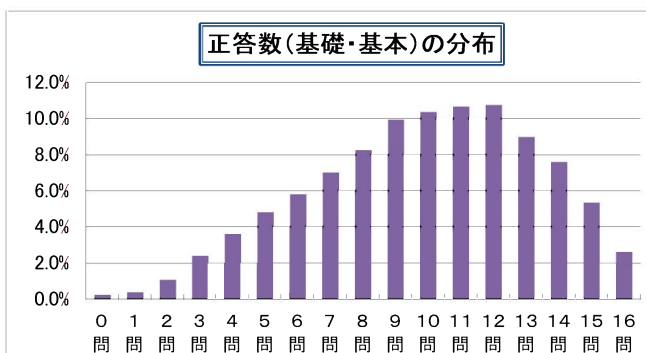


- 「基礎・基本」の平均通過率は71.5%である。大問8(1)において、融点を答える問いの平均通過率は46.6%と低く、用語の定着が図れていない。また、追跡問題である大問1(2)の裸子植物のつくりは、平均通過率が41.7%であり、改善が図られていない。
- 「思考・表現」の平均通過率は51.3%である。例年課題がある粒子領域の平均通過率は、61.8%とやや改善が見られる。しかし、大問8(4)密度の概念を活用した問いに関する平均通過率は42.4%で、粒子概念が十分に身に付いていない。
- 「探究の過程」を踏まえた授業を展開し、自分の考えをもたせること、その後の自分の考えの再構築を大切にしてほしい。また、単元末には、かごしま学力向上支援Webシステムにある評価問題等を活用することで、学習内容を確実に定着させたい。

中学校第2学年【理科】

学年別平均通過率

	小5	中1	中2
基礎・基本	87.5%	71.5%	61.6%
思考・表現	70.2%	51.3%	50.7%
全体	81.2%	64.8%	58.0%

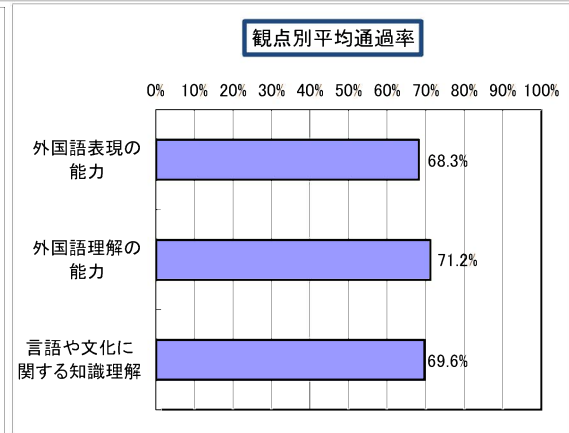
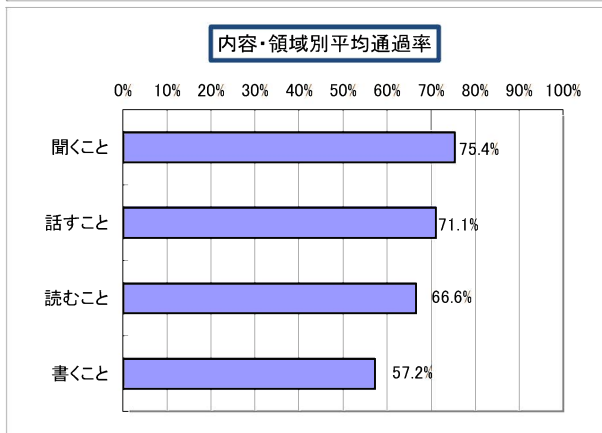
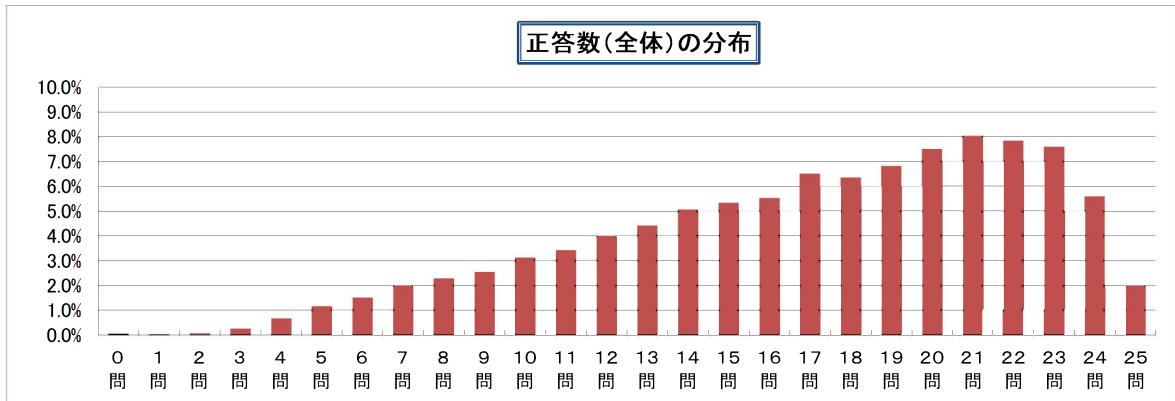
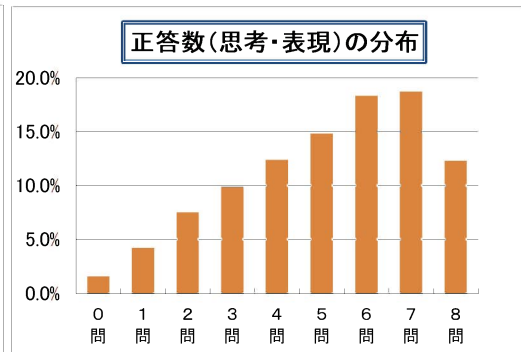
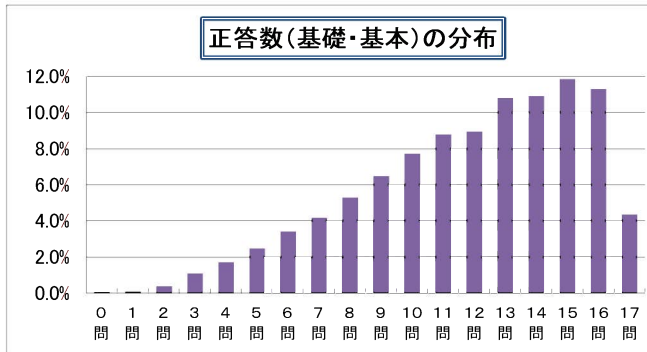


- 「基礎・基本」の平均通過率は61.6%である。エネルギー領域の平均通過率が46.1%と低く、特に、中1で学習した大問4(2)の圧力を求める問題の平均通過率は24.8%である。また、大問7(3)については、文章から冬の天気の特徴を問う形で出題したが、平均通過率が40.6%で、知識の有機的なつながりができておらず、課題がある。
- 「思考・表現」の平均通過率は50.7%である。特に、大問4(3)の浮力の大きさを求める問題、大問6の化合比を求める問題など、表から数値を読み取ることに課題がある。また、正答数のグラフから、思考力、表現力には個人差が生じているのがうかがえる。生徒間の学び合いを進め、考えることを楽しむ生徒の割合を増やしたい。
- 単元間のつながり、小・中の連携など、系統性を強く意識した指導の充実を図ること、単元での学習終了後に、学習した内容やそれに関する事象に興味・関心を持続、向上させる工夫をしてほしい。また、学習内容を確実に定着させるために、かごしま学力向上支援Webシステムにある評価問題等の活用も図りたい。
- 中2の理科は、今回の定着度調査14教科のうち、唯一、全体の通過率が6割を下回った。理科を担当する者は、このことを重く受け止め、授業や対策の改善を図らなければならない。

中学校第1学年【英語】

学年別平均通過率

	中1	中2
基礎・基本	69.6%	65.2%
思考・表現	64.1%	51.6%
全体	67.9%	61.0%

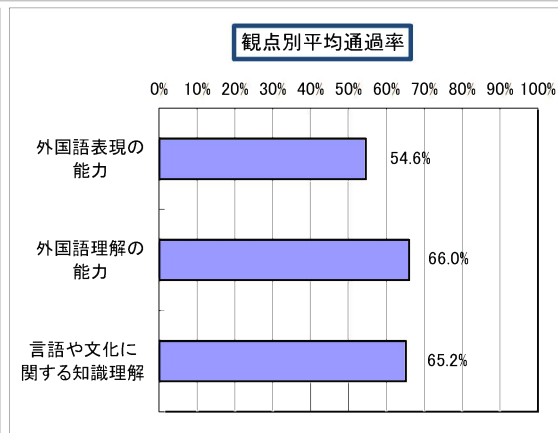
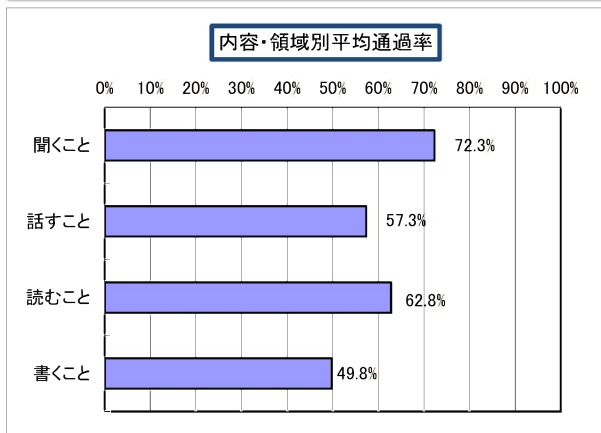
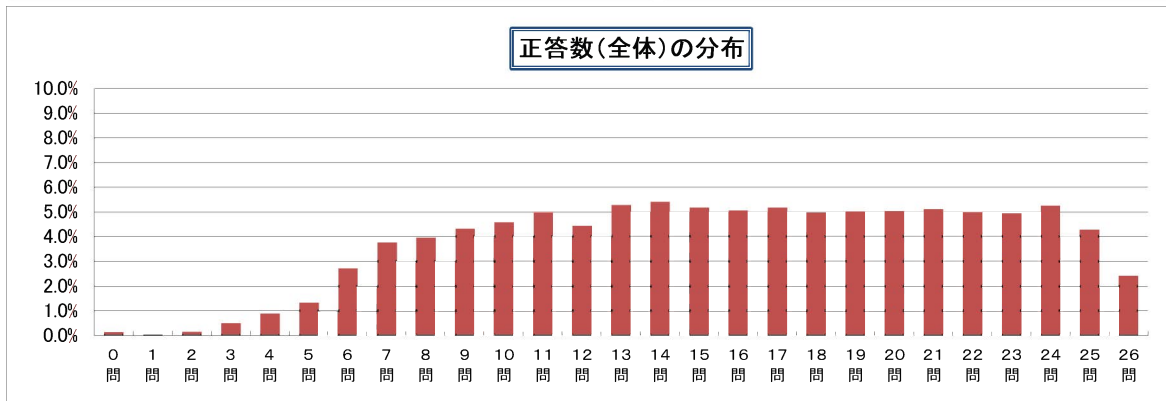
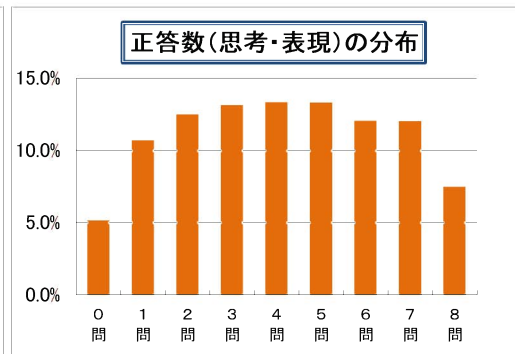
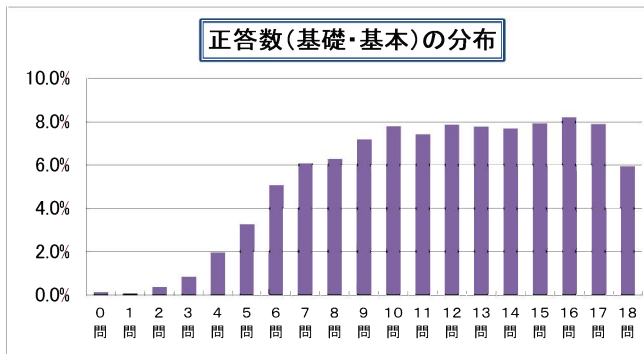


- 聞くことではthirteenthとdogsの聞き取りや、3単現のsを含んだ語句の書き取りなどの問題に課題があり、発音と綴りの関係について、中1初期から適切な指導を継続する必要がある。
- 読むことでは、短い英文の読み取りや there の内容理解について改善が見られるが、ポスターの中の必要な情報や、長めの英文の要点を読み取る問題で課題が見られた。
- 書くことでは、対話の流れに合うように He plays ～.や Do you study ～?などの基本的な文を完成させる問題の通過率が低い。また、まとまりのある内容を英語で書く問題の無解答率は2.6%と低かったが、正確さが50%を超えない状況が継続している。
- 初見の英文の要点を捉えたり、読んだことについて英文を書いたりするなど、全国学力・学習状況調査の出題形式を踏まえた問題の通過率が低い傾向にあることを踏まえ、授業改善及び定期テストの出題形式の改善を図る必要がある。

中学校第2学年【英語】

学年別平均通過率

	中1	中2
基礎・基本	69.6%	65.2%
思考・表現	64.1%	51.6%
全体	67.9%	61.0%



- 聞くことにおいては、まとまりのある英語を聞いて、必要な情報を把握する問題や、聞いて把握した内容について自分の考えを書く問題の通過率が低い。
- 読むことでは、短い英文を正確に読み取る問題や、グラフの内容を正しく表す英文を選ぶ問題で課題が見られる。また、まとまりのある英文の概要を把握する問題では改善が見られるが、要点を捉える問題では課題が継続している。英文を読んで理解したことを基に考えを書く問題は、無解答率が15.8%であり、非常に低い結果であった。
- 書くことでは、中2の履修内容(二つの目的語をとる動詞、不定詞)が十分に身に付いていない。また、対話文を完成させるための英語を書く問題では、中1の内容の通過率が33.5%であった。授業において英語に触れる機会を増やすことが大切である。まとまりのある英文を書く問題でも課題が継続しており、口頭で伝え合う活動と書く活動を組み合わせながら、継続的に指導する必要がある。